

もくじ

1. 大工と鬼六 2
2. ももたろう16
3. ねずみの嫁入り36
4. 命のろうそく60
5. かもとりごんべえ88
6. ききみみずきん 104
7. 金太郎 122

だ い く お に ろ く
大工と鬼六

原作： 日本の昔話

イラスト： hori

編集： YellowBirdProject

5

するとその^{とき}、川^{かわ}の中^{なか}から、一匹^{いっぴき}の鬼^{おに}が姿^{すがた}を現^{あらわ}しました。

おお^{おお}からだ^{からだ}に、二^に本^{ほん}の角^つ。耳^{みみ}までさけた口^{くち}には、するどいきば^はが生^はえています。

「おい、お前^{まえ}！ここはおれの縄張^{なわば}りだ。
ここになにをしにきた！」

「ひえ～、た、助^{たす}けてくれ～！おいらただ頼^{たの}まれて、
この川^{かわ}に橋^{はし}をかけにきただけだ。

ねが^{ねが}いだから見逃^{みのが}してくれ～・・・」

「この川^{かわ}に橋^{はし}をかけるだと？そうだなあ・・・よし、人間^{にんげん}。
おれがお前^{まえ}の代^かわりに、ここ^{はし}に橋^{はし}をかけてやろう」

「え、ほ、本^{ほんとう}当^{とう}ですか！」

「ただしその代^かわり、お前^{まえ}の顔^{かお}に付^ついている、まん丸^{まる}い
めだま^{めだま}を二^{ふた}つ、おれがもらってやる。いいか、約^{やく}束^{そく}だぞ！」

おに^{おに}はそう言^いうと、川^{かわ}の中^{なか}にもぐっていきました。



47

くも い どうじ とつぜんつよ かぜ ふ
雲がそう言ったのと同時に、突然強い『風』が吹いて、
くも とお ふ と
雲はずっと遠くに吹き飛ばされてしまいました。

くも ふ と
(あの雲さんを、かんたんに吹き飛ばしてしまった。
しん
信じられない！)

ふうふ かぜ こえ
ねずみの夫婦は、さっそく風に声をかけました。



おじいさんは帰る途中、道端の大きな木の下で休んで
いました。

するとそこに、カラスが二羽飛んできて、おじいさんの
頭の上の木の枝にとまりました。

カラスはカーカーと、まるで話しをしているかのように
鳴いていました。

「そうだ、さっそくこのずきんを使ってみよう！」

おじいさんは、懐からききみみずきんを取り出し、
頭にかぶりました。

するとカラスの鳴き声が、まるで人がしゃべっているか
のように聞こえてきたのです。

